

農林水産委員会

令和6年12月5日

高病原性鳥インフルエンザの
防疫対策について

Q 報道等によりますと、1例目が北海道で10月17日に確認されました。過去最速で、早い時期のインフルエンザの発生ということで大変懸念されます。そこで、今シーズンの鳥インフルエンザの全国的な状況について、県の認識をお尋ねいたします。

田中畜産課長

A 今シーズンにおける高病原性鳥インフルエンザの発生状況は、これまでで最も早い10月17日に北海道で発生して以降、12月3日までに10道県12事例が確認されており、東北地方では11月10日に宮城県で発生しています。

これまでのところ、過去最多の発生となった令和4年シーズンと同等の頻度で発生しているほか、今シーズンは過去に発生した農場や地域での再発も複数認められています。

農林水産委員会

令和7年1月21日

Q リンゴ樹の被害を軽減するために、農家の方が一生懸命園地に行って、枝の雪下ろし作業をしていますが、農道が除雪されていないということで、一部除

Q 県では、国策として学校給食を無償化するよう、国に対してどのように働きかけてきたのかを伺いたい。

こどもみらい課

A 県では、学校給食をはじめとした子育て費用の無償化については、全国一律の制度として国が行うべきとして、これまで国への重点施策提案や全国知事会をはじめとする様々な機会を通じて、国に提案・要望してきたところです。

Q 国策として学校給食の無償化が実施されるまで、県交付金制度を継続するべきと考えるが、県の見解をお伺いしたい。

こどもみらい課

A 県としては、国の動向を注視しながら今後も、市町村における学校給食の無償化の取組を支援するため、交付金制度を継続したいと考えています。

こじった質問もしました

児童虐待の防止について

りんご生産の新たな担い手の確保について

今冬の豪雪による市町村の雪捨て場への支援について

中南部地域の都市計画道路の整備について

岩木山火山防災に係る対策の推進について

令和7年
6月12日
青森県議会
第322回定例会
開会

第83代副議長に就任



斉藤ちかし[略歴]

- 昭和45(1970)年生まれ
- 平成元年弘前高等学校卒業
- 旧岩木町議会議員1期
- 弘前市議会議員1期
- 青森県議会議員4期
- 青森県議会農林水産委員会
- 岩木山観光協会会長
- 岩木山商工会理事
- 津軽中学校同窓会会長
- 岩木ソフトボール協会会長
- NPO法人 津軽弁協会理事

皆様のご意見・ご要望を、斉藤ちかしまでお寄せください

※一部のみ掲載させていただきました。詳しくは青森県議会のホームページをご覧ください。

ちかし Vol.13
県議会議員「斉藤ちかし」が故郷の明日を考える。
REPORT

↑至岩木山
●出光GS小山輪業様
★斉藤ちかし事務所
●グループホームいわき様
●ハッピードラッグ岩木店様
↓至弘前公園

〒036-1312
青森県弘前市大字高屋字福田66-1
TEL 0172-82-3202
FAX 0172-82-3103
HP▷http://www.chikasi.com/profile.html



活動日誌

2024年
↓
2025年

農林水産委員会

令和6年
4月19日モモシンクイガ
特別防除対策事業の
取組について

Q 先般2月の補正予算において、モモシンクイガに対する2億7,500万の、防除予算をいただきましたことには本当にありがたく感謝しております。

そこで、今、まさにコンフューザーRの設置をしている最中だとは思いますが、このモモシンクイガが仮に出た場合、台湾の輸出なども止まってしまつおそれがあるということで、非常に地元の農家さん、そしてまた輸出業者さん、懸念されております。そこで、改めて確認のためですが、本事業の目的とその内容をいまい度確認させていただきたいと思います。

種市りんご果樹課長

A 本事業は、令和5年の記録的な夏季高温の影響によりモモシンクイガの被害が多く見られていることなどを踏まえて、発生抑制に効果の高い交信攪乱剤を令和6年の防除暦に採用したことから、その購入を促し、被害防止の徹底を図ることを目的に実施しております。支援内容は、病害虫の発生元となる放任園の周辺を中心に、より防除効果の高まる地域ぐるみでの交信攪乱剤の設置に取り組む生産者等に対し、3か年継続して使用する意向を確認した上で、購入経費の2分の1以内を補助するものとなっております。

農林水産委員会

令和6年
5月21日マメコバチの数が
少ないことによる
結実への影響について

Q 本年産は、十分な開花量というところで一安心ですが、一方で報道にもありましたが、周りからも聞こえてきますが、受粉に必要なマメコバチがどういふわけか飛はないというような何年か前にもあった記憶がありますが、要は、

雪はされていますが、御本人の車を置くこととは通れないということです。農道の除雪を早期にやっていただきたい、併せて、待避所といったものを造っていただきたいという御要望が多々上がっております。そこで、市町村との連携ということもありますでしょうが、県としては、農道除雪の早期の実施に向けて、どのような対策を取っていくのかお伺いいたします。

澤居農林水産政策課長

A 県では、農道の管理が市町村であることを踏まえりんご生産者が剪定や雪害防止のため、園地に円滑に出入りできるよう、生活道路の除排雪にめどが立ち次第、農道の早期除排雪を実施するよう、今月14日に市町村へ文章で依頼したところでございます。

A 県民局や農協の現地巡回により、例年より活動しているマメコバチが少ない園地が見られたため、5月1日にりんご生産情報を発表し、結実確保のための積極的な人工授粉の実施と次年度産の貯蔵花粉の確保を呼びかけたところです。

また、県産業技術センターりんご研究所が、県内5園地でマメコバチの巣の状況を調査したところ、成虫のまま死亡しているハチもいたことから、5月10日発表のりんご生産情報において、適正な飼養管理に努めるよう呼びかけました。

現在、マメコバチの数が少ないことによる結実への影響を速やかに把握するため、5月20日から24日の日程で、臨時の結実調査を実施しているところであり、状況を確認した上で丁寧な着果管理など指導を徹底していくこととしております。



県内調査 農林水産委員会は、 東西・下北地区で調査を実施

- 農事組合法人上小国ファームでは、集落営農法人経営等について
- 青森県観光りんご園では、りんごを基幹とした観光果樹園等の複合経営について(写真①)
- 平内町漁業協同組合では、ホタテガイの高水温被害について
- 佐井漁港では、水産生産基盤整備事業について
- 株式会社寅福プラントでは、大型ガラスハウスによるトマト生産について

令和6年
6月13日

青森県議会第318回定例会開会

農林水産委員会

令和6年6月26日

3日間、結実調査について

Q 6月17日から19日、りんご協会では3日間、結実調査をされておりありますが、その結果をお伺いします。

A 県が、公益財団法人青森県りんご協会に委託して、6月17日から19日にかけて県内93園地で行った結実調査の結果、結実率の平均は、主力品種のふじで40%、つがるで43%、ジョナゴールドで41%、王林で45%と、いずれの品種も標準的な着果程度である25%から29%を上回っております。

一方、ふじでは園地によるばらつきが大きく、標準的な着果程度である25%を中心果だけで確保できない園地が26園地ありました。

次世代を担う子供たちが 愛情を持って暮らせる街にしたい

県内調査 農林水産委員会は、 三八・上北地区で調査を実施

- 農事組合法人北栄トラクター利用組合TMRセンターでは堆肥を有効活用した自給飼料の生産について
- 株式会社グリーンソウル桜平工場ではスマート農業機械の導入、職場環境整備の取組について
- 農業生産法人、株式会社よしだやでは、にんにくの大規模栽培及び加工等の取組について
- 岩手県農業研究センター畜産研究所では、肉用牛等の品種改良増殖技術の取組について(写真②)



県内調査 農林水産委員会は、 中南・西北地区で調査を実施

- 地方独立法人青森県産業技術センターりんご研究所では、りんごの品種改良及び高密植栽培技術開発の取組について
- ジビエ工房白神では、捕獲鳥獣を地域資源として活用する取組について(写真③)
- 有限会社ゴールド農園では、りんごの海外輸出拡大に向けた取組について(写真④)
- 木村仁氏が所有する稲わらの倉庫では、稲わらの収穫・販売の取組について(写真⑤)



農林水産委員会

令和6年8月21日

Q 令和5年シーズンにおける県内の松くい虫の被害状況をお伺いさせていただきます。

A 昨年の7月から今年の6月までの令和5年シーズンにおける松くい虫被害は、深浦町では、昨年より125本多い、過去最多となる

令和6年
9月19日

青森県議会第319回定例会開会

農林水産委員会

令和6年9月18日

県外調査

11月6日～8日

- JAにいわでは、人材確保に係る他県との広域連携等の取組について(写真⑥)
- 株式会社宇和島プロジェクトでは、みかん魚開発プロジェクト等の取組について、みかん飼養殖場を視察した後、取組概要の説明
- 愛媛大学先端農業R&Dセンターでは、知的植物工場システムの概要についての説明

令和6年
11月22日青森県議会
第320回定例会
開会

Q 8月下旬、令和6年産のリンゴの予想収穫量が発表になったと聞き及んでおります。毎年、予想収穫量を発表されておりますが、発表する目的と、その調査方法をお伺いしたいと思います。

242本が確認され、被害発生地域についても、これまで確認されていた広戸・追良瀬・深浦・大間越地区に加えて、轟木地区や岩崎地区などに拡大しています。なお、深浦町における被害拡大の要因については、専門家からは、昨年の猛暑の影響により病原体であるマツノザイセンチュウや媒介昆虫のマツノマダラカミキリの活動期間が長く、活発だったことが挙げられています。

本県では、各割散布を実施してないということですが、他県で効果が出ているのであれば、早急にしっかりと実施すべきだということを申し添えます。

農林水産委員会

令和6年
9月18日

要望活動

7月4日 農林水産委員会は、7月4日に県執行部と合同で、農林水産省及び県選出国会議員に対し「生産者の所得向上に向けた「農林水産力」

農林水産委員会

令和6年7月19日

令和6年産米の生産振興について

Q 6年産米の主要品種、様々な県産米がありますが、それらの作付面積と現在の生育状況をお願いいたします。

館山農産園芸課長

A 種子の申込み状況等から推定した本県における令和6年産米の作付面積は4万100ヘクタールで、主要品種別では、まっしぐらが3万800ヘクタールで全体の約8割を占めており、はれわたりが前年の約3倍となる6,200ヘクタール、青天の霹靂が前年より約40ヘクタールの増加となる約2,280ヘクタールとなっています。

生育状況は、田植後の5月下旬から6月上旬にかけて日照不足で推移しましたが、その後は天候に恵まれたことから、順調に進んでいます。

なお、まっしぐらの県生育観測圃の調査データによると、穂のもとができる幼穂形成期が平年より5日程度早くなっていることから、出穂期も早まることが予想されています。

種市りんご果樹課長

A 予想収穫量の調査につきましては、高品質りんごの安定生産と年間を通じた販売計画につなげるための基礎データを収集するということを目的に、毎年、本格的な収穫が始まる前に調査を実施しまして、予想収穫量の推計として活用しております。

その方法につきましては、県のりんご協会に委託しまして、摘果作業が終了する7月下旬を目安に県内約80地点の主要な品種の果実肥大、着果率、栽植密度などを調査いたしまして、8月1日現在のデータとして取りまとめしております。

Q 令和6年産の予想収穫量をお伺いしたいと思います。

種市りんご果樹課長

A 過去10年間の平均収穫量の約43万4,910トンと比べますと1万3,410トン少ない、97%となっております。その主な要因としては、結果樹面積が減少したことなどが挙げられます。なお、夏場の高音、鳥獣被害などの影響により大幅に減少した前年産の収穫量に対しては、4万7,100トンを上回っている状況でございます。